I 現在の診断名,原因

1診断名: 頚椎症性脊髄症,頚椎椎間板ヘルニア

2 原因: 頚椎椎間板によって脊髄が圧迫され四肢の不全麻痺が生じています.

II 予定されている手術の名称と方法

1麻酔:全身麻酔

2手術名: 頚椎前方固定術 骨移植

3方法: 頚部の前方を切開します.頚椎の椎間板とヘルニアを切除し,脊髄の圧迫を除きます.その後切除した空間に,骨盤から採取した骨や人工骨を移植します.

III 手術に伴い期待される効果と限界

1効果:四肢の不全麻痺が軽減されることが期待されます.軽減しない場合でも症状の悪化をくいとめることが期待できます.

2 限界:平均改善率をみると60~70%です.症状の一部が残存する可能性があります.特にしびれ感は残存する可能性があります. また術後早期には頚項部の痛みやこわばりを感じる場合があります.時間の経過とともに通常軽快していきます.

IV 手術を受けない場合に予測される病状の推移と可能な他の治療法

1予測される病状の推移:四肢の不全麻痺(手足のしびれ,巧緻運動障害, 歩行障害,排尿障害)が進行する可能性が高いと思われます.

2 可能な他の治療法:頚椎の安静を保つために頚椎カラーを装着したり, 安静にて頚部の持続牽引を行う方法が考えられます.

V 予測される合併症とその危険性

1 麻酔に伴う合併症:稀ではありますが気管の腫脹,血圧低下などの可能性があり ます.肺炎,脳卒中,心筋梗塞,麻酔のアレルギーなどで死亡する可能性もあります(1%以下).

2 手術操作によって脊髄を障害する可能性があり,麻痺の悪化もありえます(数%). 3 感染症:手術では最大限清潔な操作を行っておりますが感染の危険はゼロではありません(約1%).

4 深部静脈血栓症　エコノミークラス症候群: 術後に足の静脈内で血が固まり詰まることがあります.この場合は足がむくむだけでなく、血の固まりが心臓や肺などにとぶ可能性があります。心臓や肺などの血管が詰まると命にかかわります(1%未満).定期的に検査を行ってこの徴候が見られたら固まりを溶かすよう点滴を行います.

5 輸血に伴う合併症:手術中あるいは手術後に必要になった場合,輸血する可能性があります.その場合輸血による副作用が出現する可能性があります.

6 その他:硬膜外血腫(約1%)　血管損傷　嗄声　食道損傷　非固定部位での不安定性の出現 (10年で2−3割)　追加手術

VI 予測できない偶発症の可能性とそれに対する対応策

偶発的な合併症が出現する危険性もありますが,これらに対しては適宜病状を説明した上で治療に努めます.